５　災害時の支援について

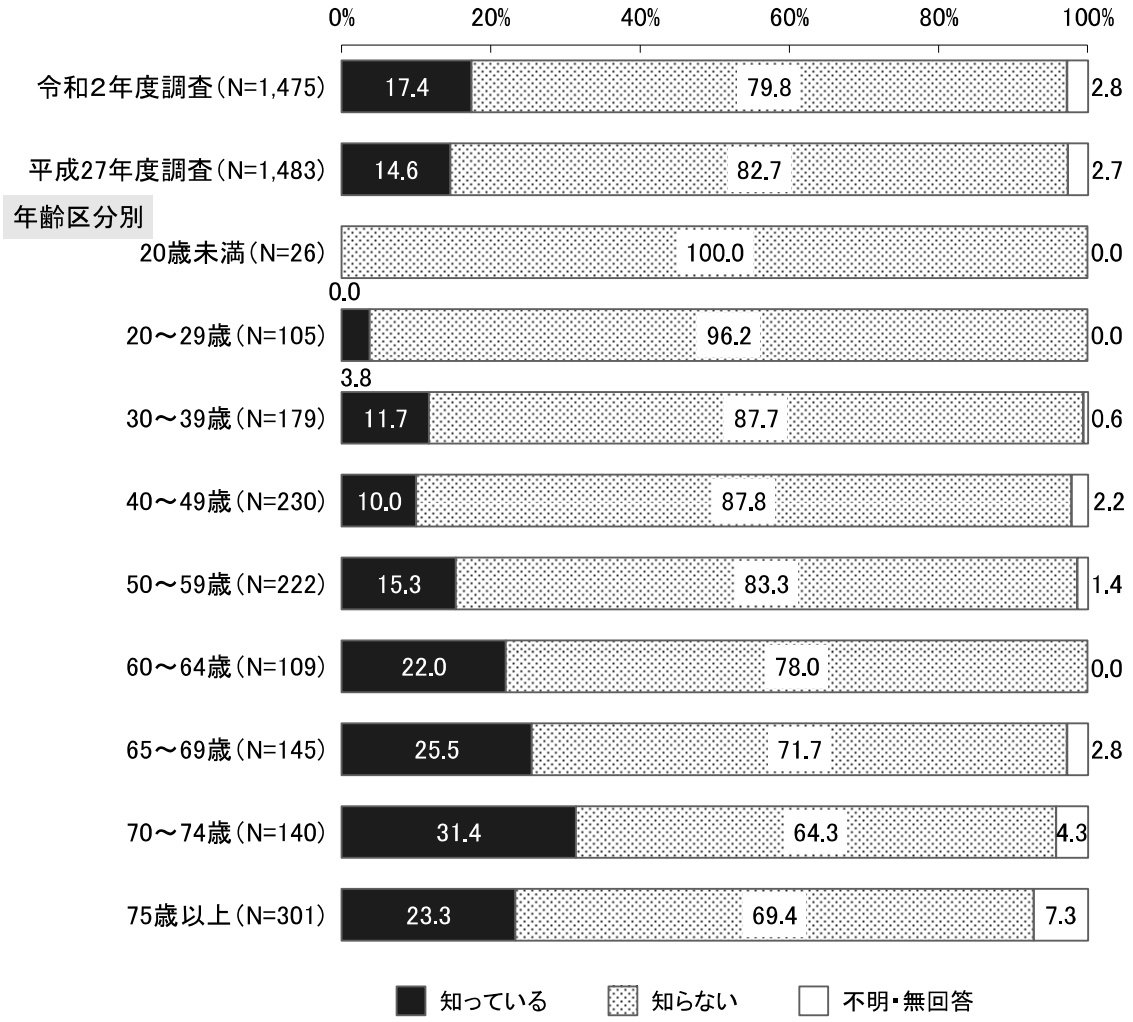
問 28　あなたは、岡崎市の制度で、災害時避難行動要支援者支援制度があるのを知っていますか。（どちらかに〇）

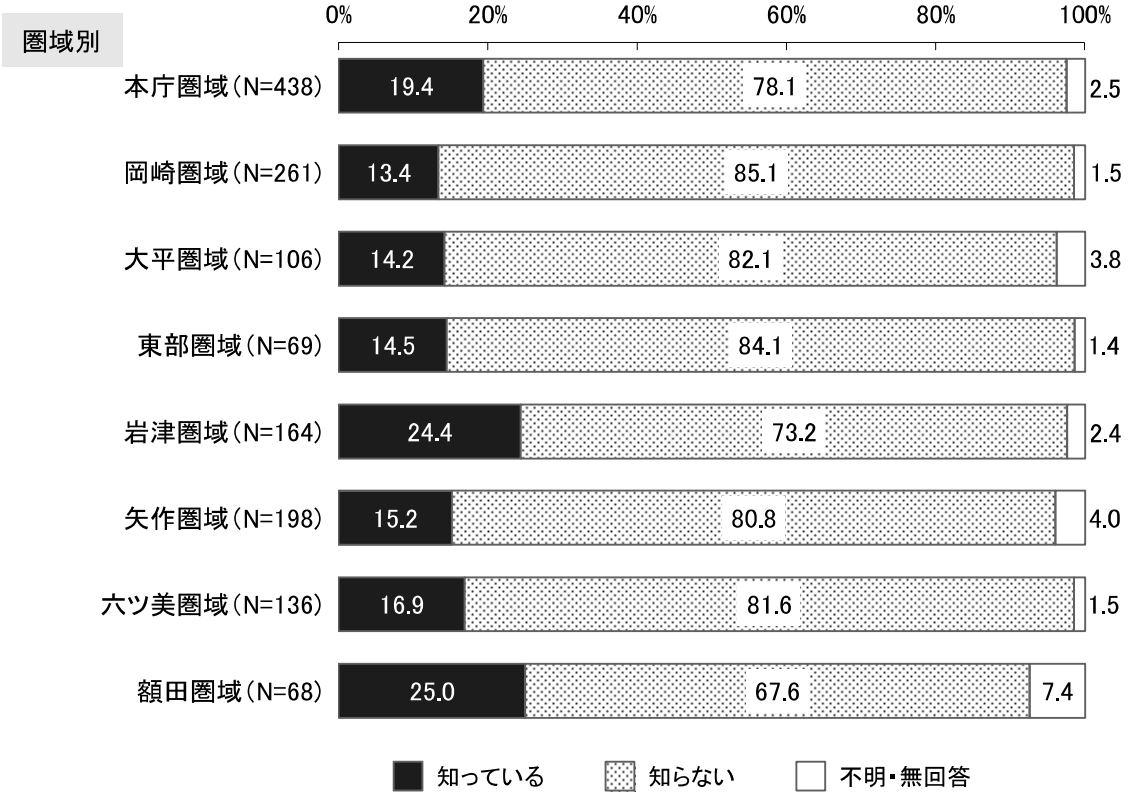
令和２年度調査では全体で「知っている」が 17.4%、「知らない」が 79.8%となっています。

年齢区分別では、年齢が上がるにつれて「知っている」がおおよそ高くなっています。なお、いずれの年代でも「知らない」が、６割を超えています。

圏域別では、岩津及び額田の各圏域で、「知っている」が２割を超えて高くなっています。

経年で比較すると、「知らない」が令和２年度調査に 79.8%と、平成 27 年度調査と比べて 2.9 ポイント低くなっています。




圏域別
0%
20%
40%
60%
80%
100%
本庁圏域（N=438）
19.4
78.1
2.5
岡崎圏域（N=261）
13.4
85.1
1.5
大平圏域（N=106）
14.2
82.1
3.8
東部圏域（N=69）
14.5
84.1
1.4
岩津圏域（N=164）
24.4
73.2
2.4
矢作圏域（N=198）
15.2
80.8
4.0
六ツ美圏域（N=136）
16.9
81.6
1.5
額田圏域（N=68）
25.0
67.6
7.4
知っている
知らない
不明・無回答

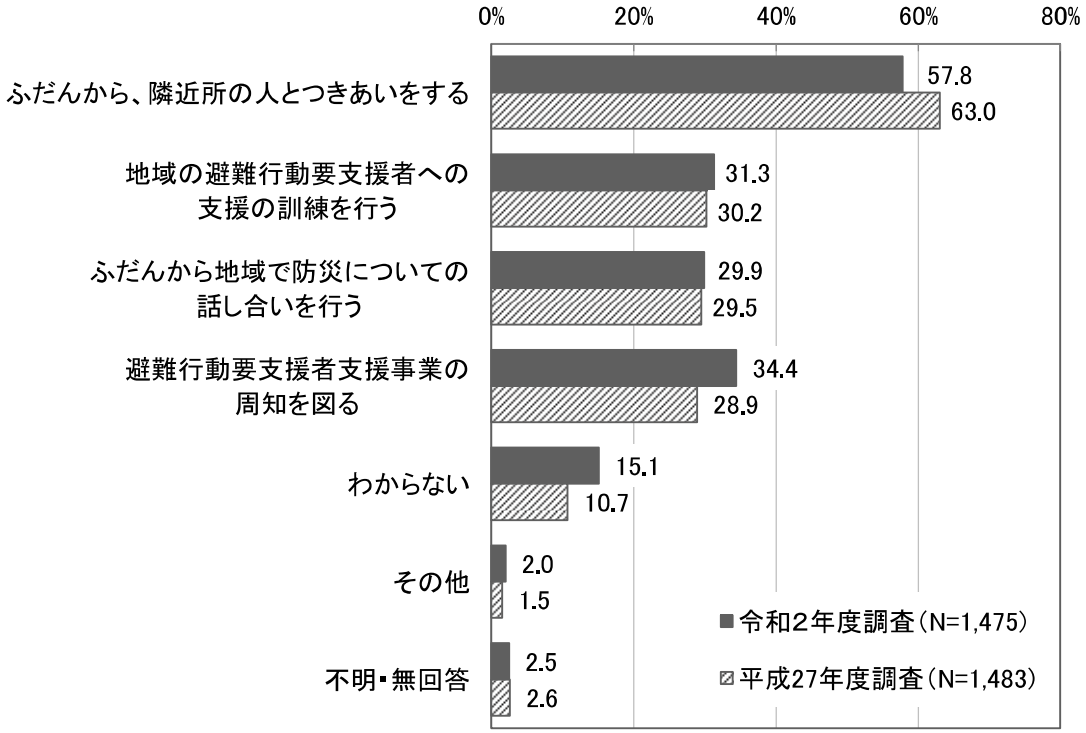
問 29　高齢者だけの世帯や障がいのある人のいる世帯（以下、「避難行動要支援者」といいます）などは災害時にさまざまな支援が必要です。どのようにすれば、災害時に支援ができると思いますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和２年度調査では、全体で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が 57.8％と最も高く、次いで「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が 34.4％、「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が 31.3％となっています。

年齢区分別では、50～59 歳で「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が、矢作圏域で「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が令和２年度調査に 34.4％と、平成 27 年度調査と比べて 5.5 ポイント高くなっています。



■クロス集計集

（単位：%）

区分		ふだんから、隣近所の人とつきあいをする	地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う	ふだんから地域で防災についての話し合いを行う	避難行動要支援者支援事業の周知を図る	わからない	その他	不明・無回答
年齢区分別	20 歳未満（N=26）	46.2	34.6	7.7	50.0	15.4	0.0	0.0
	20～29 歳（N=105）	52.4	34.3	25.7	38.1	18.1	3.8	0.0
	30～39 歳（N=179）	57.0	34.1	29.6	37.4	15.1	2.2	1.7
	40～49 歳（N=230）	50.9	31.7	23.5	38.7	15.2	3.5	1.3
	50～59 歳（N=222）	55.9	40.5	33.3	39.2	12.6	2.3	0.9
	60～64 歳（N=109）	57.8	34.9	34.9	40.4	9.2	1.8	0.9
	65～69 歳（N=145）	69.0	31.7	31.7	34.5	9.0	2.1	2.1
	70～74 歳（N=140）	67.1	32.9	32.1	33.6	15.7	0.0	2.1
	75 歳以上（N=301）	58.1	19.9	31.2	21.3	20.3	1.3	7.0
圏域別	本庁圏域（N=438）	56.6	28.5	25.3	34.0	15.5	2.5	2.5
	岡崎圏域（N=261）	60.5	34.5	36.0	34.5	13.8	1.9	1.5
	大平圏域（N=106）	56.6	26.4	38.7	30.2	12.3	1.9	2.8
	東部圏域（N=69）	52.2	17.4	26.1	30.4	23.2	0.0	5.8
	岩津圏域（N=164）	61.6	32.9	25.6	34.1	16.5	1.2	2.4
	矢作圏域（N=198）	59.6	39.9	28.8	35.9	11.6	2.0	3.5
	六ツ美圏域（N=136）	52.9	33.1	31.6	39.0	14.7	2.9	1.5
	額田圏域（N=68）	67.6	29.4	38.2	32.4	16.2	0.0	0.0